

令和4年度香川大学大学院入学式 学長告辞

本日、香川大学大学院に入学した修士課程 212 名、博士課程 48 名、専門職学位課程 58 名の皆さん、入学おめでとうございます。香川大学の教職員一同とともに皆さんの入学を心からお慶び申し上げます。また、これまで皆さんを支えて来られたご家族や関係者の皆様に心よりお祝い申し上げます。今日から皆さんはそれぞれの学問分野で学問をさらに究めるために新しい一步を踏み出しました。まさに研究者としての第一歩を踏み出したこととなります。長い人生の中で研究に没頭するひとときは、皆さんの人生にとってかけがえのない経験になると思います。

香川大学はこの4月から創発科学研究科という新しい名前の大学院修士課程を開始します。この新しい研究科は、従来の工学研究科に法学研究科と経済学研究科、さらには教育学研究科の一部の教員が参加して研究指導を行います。さらに、医学系研究科や農学研究科、地域マネジメント研究科の教員も教育指導や研究支援で参加します。国立大学の大学院でここまでの規模で理系と文系が融合し、一つの研究科として修士課程教育を展開するのは本学が初めてと言えます。本日の入学式には、医学系研究科修士課程および博士課程、農学研究科修士課程の学生、そして専門職大学院である教育学研究科高度教職実践専攻と地域マネジメント研究科の学生も参加されていますが、皆さんの研究活動にも大いに関係すると思いますので、本日はこの創発科学研究科について先ずお話いたします。

研究科の名称に用いている「創発」という言葉、少し聞きなれないかと思えます。創発という言葉は自然科学から経済や経営などの社会科学まで幅広く使われていますが、今日は大学での研究に絞って考えてみます。今、専門分野がそれぞれ異なる二人の研究者が共同である研究を始めたとします。その時に生まれる研究成果はA先生とB先生の専門分野から想像される研究成果として実を結ぶことが想定されますが、時に全く想定外の発見、お二人の専門分野からは予想できなかった研究成果が生まれることがあります。そしてこの場合の研究成果は往々にしてとても独創的で人類にとって大変意義のある成果になることがあります。創発という概念はこのような過程で生まれた成果を指します。必然に対する偶然という言葉があり、創発は偶然と同じじゃないかと思われるかもしれませんが実は全く異なります。創発とは、振り返ってみると当初のお二人の研究者の得意分野からあり得ないことではなかったと説明できるものがそれにあたります。こういった創発的研究成果は、できるだけ得意な分野が異なる研究者同士がチームを組むことで生み出される可能性が高くなるとも言われています。要するに1足す1は2ではなく3や4に化けるプロセスと成果が創発

です。

21世紀も5分の1がすでに経過する中で、地球はかつてない厳しい状況に追い込まれています。第二次世界大戦後顕著となった人口爆発、大都市化、大量の工業生産物などの結果、地球温暖化が加速化し気候変動は厳しさを増し、海洋や大気の汚染は深刻化しています。我が国では世界の先進国に先駆けて高齢化と人口減少が進行し、かつて経験したことのない課題が次々と姿を現して来ています。人工知能が人間の機能を拡充し、助けとなる未来がすぐそこにやってきましたが、人間の生きがい失われなかが懸念されてもいます。このような現代社会において、特に香川県のような地方においていかに持続可能な社会を構築していくか、そのためにはどのようなプロダクトやシステムが必要になるか、難しい課題が目の前にあります。これらの課題は既存の専門領域が単独で解決していくにはあまりにも複雑で、本質的な問題が見えにくいと言えます。そのため、なるべく多様な研究者の知を結集しての創発的な課題解決方法や発見・発明に期待がかかるわけです。今回の創発科学研究科の開設の基本的な理念もこの点にあると言えます。

創発科学研究科の共通科目には **ELSI** という科目が設定されています。**Ethical** の **E**、**Legal** の **L**、**Social** の **S** に **Issue** の **I** が組み合わせられています。これからの発明や新しい価値の創出を考える時、その計画の当初から倫理的、法学的、さらには歴史学や心理学など人文社会学的な知見を総動員して考慮していかねばならないということで注目されている概念です。例えばゲノム編集という生命科学分野の新技术は、生物の持つゲノムの特定の領域を狙って遺伝子配列を変化させる技術です。誠に画期的な技術で、革新的な治療技術や薬の創出、食糧問題の解決や環境問題の解決など期待されています。一方で、ヒトの受精卵にまで応用範囲が広がってきますと、次世代に対する予期せぬ影響などが懸念されますので、倫理的にも法的にも様々な問題が生じます。高度な通信情報技術（ICT）に関しても今や我々の生活にとって必要不可欠な存在になっていますが、フェイクニュースやサイバー攻撃など悪い方向での使用が頻発するようになっています。今後、人工知能が人々の生活を大いに支援する時代がやってきましたが、人工知能を利用したイノベーション創出においても **ELSI** の観点を十分考慮する必要があるでしょう。

話しは変わりますが、本日の入学式には、学部卒業後すぐに入学されてきた学生以外に、いったん社会に出られて活躍してこられたいわゆる社会人学生の方々が沢山おられます。医学系研究科、教職大学院や地域マネジメント研究科ではこれまでも多数の社会人学生を受け入れてきましたが、今回開設しました創発科学研究科においても社会人の方々の入学に大き

く門戸を開きました。背景には、人間の寿命の延伸に伴い、長く社会で貢献するために何回も学び直しをしていただく機会を提供したいという本学の期待があります。人生百年時代になり、**multistep** な人生設計を多くの方が立てていく時代が来ております。今回が初めての大学院入学という方が多いかもしれませんが、今後は何度でもトライしていただくことを願っております。

皆さんが選択した大学院での生活、間違いなく皆さんの人生にとってかけがいのない貴重な時間になります。どうか無駄にせず大切に過ごして下さい。期待しています。

令和4年4月3日
香川大学長 笥 善行